

## 安全データシート(SDS)

## 1. 製品及び会社情報

製品名 : ベルハンマーシリコングリス 40g  
会社名 : スズキ機工株式会社  
住所 : 千葉県松戸市松飛台316-3  
担当部門 : 開発営業チーム  
電話番号 : 047-385-5311  
FAX番号 : 047-385-5313  
整理番号 : SD2302-GJ19  
推奨用途及び使用上の制限 : 工業用潤滑剤

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類(JIS Z 7252-2019) : GHS分類基準の区分に該当しない又は分類できない。  
GHSラベル要素

絵表示(シンボル) : なし  
注意喚起語 : なし  
危険有害性情報 : なし  
注意書き

【安全対策】 : GHS分類による注意書きなし  
【応急措置】 : GHS分類による注意書きなし  
【保管】 : GHS分類による注意書きなし  
【廃棄】 : GHS分類による注意書きなし

その他 : GHS分類による注意書きはありませんが、以降の情報を参考に安全対策/応急措置/保管/廃棄に関し十分な配慮を行うこと。

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物  
化学名又は一般名 : 潤滑剤  
成分及び含有量 : 非晶質シリカ(1-10%)、その他非公開  
化学特性(化学式) : 非晶質シリカ(SiO<sub>2</sub>)、その他非公開  
官報公示整理番号 : シリカ((1)-548)、その他非公開  
(化審法、安衛法)  
CASNo. : シリカ(112945-52-5:Silica amorphous)、その他非公開

## 4. 応急処置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師の診断/手当を受けること。  
皮膚に付着した場合 : 布や紙などでふき取った後、水と石けんで付着した部分を十分に洗う。皮膚刺激または発しん(疹)が生じた場合は医師の診断/手当を受けること。  
目に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、眼科医の診断/手当を受けること。  
飲み込んだ場合 : 無理に吐かせない。口の中が汚染されている場合には、水で十分にすすぐこと。気分が悪い時は医師の診断/手当を受けること。

## 5. 火災時の措置

消火剤 : 霧状の強化液、泡、粉末、炭酸ガス  
使ってはならない消火剤 : 棒状の水及び注水  
火災時の特有危険有害性:  
火災によって刺激性、腐食性または毒性のガスを発生するおそれがある。  
火災によってシリカ微粉末が発生するおそれがある。  
特定の消火方法 : 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を使用する。  
大規模火災の際には、泡消火剤、霧状の強化液を使用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 作業の際は適切な保護具を着用する。漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。  
環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出されないように注意する。流出した場合は当局へ報告する。  
回収物や使用したウエス等は法規に従って処分する。  
除去方法 : ヘラ等でできるだけ多く空容器に回収し、残りはウエス等で拭き取る。  
回収物や使用したウエス等は法規に従って処分する。  
二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものをすみやかに取り除き、消火用器材を準備する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策 : 保護眼鏡や保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を避ける。  
安全取扱い注意事項 :

使用前にSDS/取扱説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
作業場の換気を十分に行うこと。  
みだりにヒューム(煙)やミスト(または粉塵)を発生させないこと。  
ヒューム(煙)/蒸気/ミストを吸入しないこと。  
この製品を取扱う時に、飲食または喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
衣類に付着した場合、汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
火気注意

### 保管

適切な保管条件 : 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。  
製品名およびGHS表示の違う容器、あるいはこれらの表示のない容器に移し替えないこと。  
使用後の容器は密栓すること。  
直射日光を避け、冷暗所に保管すること。  
混触禁止物質との接触を避けること。  
火気注意

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 蒸気、ミスト、または粉塵が発生する場合は発生源の密閉化又は局所排気装置を設ける。

電気機器類は防爆構造のものを用いる。

取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄の為の設備を設ける。

管理濃度 : 設定されていない(作業環境基準:労働省告示第26号、平成7年3月27日)  
許容濃度 :

日本産業衛生学会 : 総粉塵 2mmg/m<sup>3</sup>  
※商品にはシリカが含有されているが、通常の手扱いはシリカが粉塵として発生する事はない。

ACGIH : 設定されていない。  
保護具

呼吸用の保護具 : 通常の手扱い条件においては特に必要なし。蒸気又はミストが発生する場合は有機ガス用を着用する。粉塵が発生する場合は防塵マスクを着用する。

手の保護具 : 耐油性の手袋

眼の保護具 : 普通型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 皮膚や衣類に付着する可能性のある場合は、耐油性の長袖作業服を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 物理的状态

形状 : ペースト状

色 : 無色透明

臭い : なし

### 物理的状态が変化する 特定の温度/温度範囲

沸点 : データなし

融点 : 300°C以上

分解温度 : データなし

引火点 : 260°C以上 (基油@C.O.C.)

発火点 : データなし

爆発限界 : 非該当

蒸気圧 : 極めて小さい

密度 : 9.9 g/cm<sup>3</sup>(@15°C)

溶解性 : 水に不溶。ベンゼン及びトルエンなどや石油系溶剤に難溶。

## 10. 安定性及び反応性

安定性 : 室温では安定

反応性 : 水との反応性はない。

避けるべき条件 : 高温、スパーク、裸火、混触危険物質との接触

混触危険物質 : 強酸化剤

危険有害な分解生成物 : 情報なし

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口) : 区分に該当しない

急性毒性(経皮) : データ不足のため分類できない

急性毒性(吸入-ミスト) : 区分に該当しない

皮膚腐食性/刺激性 : データ不足のため分類できない

眼に対する重篤な損傷

/眼刺激性 : データ不足のため分類できない

呼吸器感作性または皮

膚感作性 :

データ不足のため分類  
できない  
生殖細胞変異原性： データ不足のため分類できない  
発ガン性： データ不足のため分類できない  
生殖毒性： データ不足のため分類できない  
特定標的臓器毒性(単  
回ばく露)： データ不足のため分類できない

特定標的臓器毒性(反  
復ばく露)： データ不足のため分類できない

誤えん有害性： データ不足のため分類できない

※ 上記の判定は  
「GHSに基づく化学物質  
等の分類方法」(JIS  
Z7252-2019)に従った。

## 12. 環境影響情報

水性環境有害性 短  
期(急性)： データ不足のため分類できない

水性環境有害性 長  
期(慢性)： データ不足のため分類できない

オゾン層への有害性： 各成分はモントリオール議定書には列記されていない。

※ 上記の判定は  
「GHSに基づく化学物質  
等の分類方法」(JIS  
Z7252-2019)に従った。

残留性/分解性： 生分解性は低いと考えられる。  
生体蓄積性： データなし  
移動性： 環境に排出された場合、土壌に移動する可能性がある。

---

13. 廃棄上の注意 投棄禁止、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」  
内容物や容器を廃棄する場合、法律・各自治体の条例に基づき、許可を受けた専門  
の廃棄物処理業者に委託する。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去してリサイクルするか、関連法規並  
びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

---

14. 輸送上の注意  
国連分類： 国連勧告の定義上危険物に該当しない  
国連番号： 非該当  
国内規制： 消防法 非危険物  
海上輸送及び航空輸送 危険物に非該当  
海上輸送及び航空輸送 危険物に非該当

---

---

## 15. 適用法令

- 消防法 : 非該当
- 毒物および劇物取締法 : 非該当
- 労働安全衛生法 表示物質(法第57条) : 非該当
- 労働安全衛生法 通知対象物(第57条の2) : 非該当
- 化学物質管理促進法(PRTR法) 第一種及び第二種指定物質 : 非該当
- 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法) 第一種特定化学物質 : 非該当
- 水質汚濁防止法 : 油分排出規制(許容濃度 5mg/l ノルマルヘキサン抽出分として)
- 海洋汚染防止法 : 油分排出規制(原則禁止)
- 下水道法 : 非該当
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 産業廃棄物規制(拡散、流出の禁止)

---

## 16. その他の情報

### 参考文献 :

1. 許容濃度の勧告、日本産業衛生学会(2012)
2. 米国産業衛生専門会議(ACGIH) "TLVs and BEIs"(2012)
3. International Uniform Chemical Information Database(IUCLID) (2000)
4. IARC suppl.7(1987)
5. IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans(2006)
6. EC理事会指令[67/548/EEC]の付属書 I「危険な物質リスト」
7. 米国産業衛生専門家会議:ACGIH documentation(2006)
8. WHO/IPCS:「環境保護クライテリア(EHC)」(1982)
9. WHO/IPCS「ICSCカード(International Chemical Safety Cards)(2001)
10. GHSに基づく化学物質等の分類方法 (JIS Z7252-2019)

### 記載内容の取扱い

本文書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。

すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。